

The background of the cover is a photograph of a misty forest. Two people are walking away from the viewer down a path covered in moss. The trees are tall and thin, with bare branches. A large, diagonal red watermark with Japanese characters is overlaid across the center of the image.

Michael Larson

NOTES ON BROTHERHOOD

English Literature in the Classroom Vol. 1

Kanto Branch of The English Literary Society of Japan

Asahi Press

見本のご請求はこちらをクリックしてお申込みください

審査用見本

Michael Larson

NOTES ON BROTHERHOOD

English Literature in the Classroom Vol. 1

Kanto Branch of the English Literary Society of Japan

本見用査査



Asahi Press

音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」を使った 音声ダウンロード



朝日出版社開発のアプリ、「リスニング・トレーナー（リストレ）」を使えば、教科書の音声をスマホ、タブレットに簡単にダウンロードできます。どうぞご活用ください。

● アプリ【リスニング・トレーナー】の使い方

《アプリのダウンロード》

App StoreまたはGoogle Playから
「リスニング・トレーナー」のアプリ
(無料) をダウンロード

App Storeは
こちら▶



Google Playは
こちら▶



《アプリの使い方》

- ① アプリを開き「コンテンツを追加」をタップ
- ② 画面上部に【15703】を入力しDoneをタップ

音声ストリーミング配信》》

この教科書の音声は、
右記ウェブサイトにて
無料で配信しています。



<https://text.asahipress.com/free/english/>



は し が き

■この教科書と作者について

この教科書は、ジャーナリスト、小説家、大学教師として活躍しているマイケル・W・ラーソンの中編小説*Notes on Brotherhood* (2022) の全文を註とともに読みながら、合わせて読解前、読解後のタスクを行うことで、読解力を中心に、総合的な英語力を養えるように編纂されたものです。

この作品はラーソン氏の自伝的小説で、1990年代から2000年代初頭にかけての少年～青年時代を描いた短編小説の連作で構成されています。なお、タイトルの“Notes”とは、「覚え書き、メモ、記録」の意味で、“Brotherhood”とは「兄弟であること、兄弟というもの」を指しています。

2005年の初来日以来、日本とアメリカを行ったり来たりしながら、ジャーナリスト、作家、研究者として活躍しているラーソン氏は、日本での滞在歴が通算10年以上にもなり、現在も日本の大学で教鞭をとっています。そういう事情もあり、この教科書のために*Notes on Brotherhood* を書き下ろしていただきました。

■この教科書とのつきあい方

各ユニットの前後にあるタスクについては、先生の指示にしたがってください。ここでは、本体となっている小説との向き合い方について、お話しします。

各ユニットの読みかたは人それぞれではありますが、お勧めの読みかたは以下のとおりです。

1. まず註を参照しながら各ユニット全体に目を通す。このときは、少々わからないところがあっても飛ばしてかまいません。話の全体の流れをつかむのが目的です。
2. 次に、今度は、必要に応じて辞書を引きながら、ゆっくり読んでみます。あとでお話するように、表現のされかたや会話の意味について考えながら読みましょう。
3. さらに、作品に出てくる文化的事象について、参考書やサイトで調べながら読んでください。Pre-readingで指示されている場合もありますが、それ以外のものについても積極的に調べましょう。
4. DiscussionやWritingのタスクを手がかりに、自分の反応を言葉にするように努力してください。ここまでできて、初めて「読む」ことが完了と言えます。

以下、これらの読みかたをお勧めする理由を説明します。

英語の読解が、いわゆる4技能の基本にあることを、多くの専門家が指摘しています。英語力を向上させるのに大量の英語のインプットが必要なことは明らかで、そのために最も簡単にアクセスできるリソースは文字媒体です。また、通り過ぎてしまう会話や映画と違って、文字で書かれたテキストは、あくまで学習者のペースで読み進めていくことができます。

その際、ポイントとなるのは、ある程度の量をまとめて読むことです（そこで、上記の1です）。以前に比べると最近は減りましたが、みなさんのなかにも、「教科書の和訳を全部書かないとわかった気がしない」という人がいるかもしれませんね。この習慣からは脱却しましょう。全文の和訳を書くというのは、時間がかかる割に英語を読む力は身につきません。一方で、よくわからないところを取り出して、文法に注意しながら丁寧に読んでみることは重要です。その場合は、和訳という作業も必要になってくるでしょう。

次に、英語で文学作品を読むことのメリットは、思い切って単純化して言えば、「言葉の使いかた」を学べるということです。みなさんが将来必要とする「高度な英語力」とは、お天気の挨拶や買い物のしかたのことではありません。本当の英語力というのは、英語で難しい交渉を進めたり、自他の意見を交換したりすることであり、そこには、人を傷つけるような皮肉や遠回しな表現もあれば、人の心をなごませるユーモアに富んだ表現も、人の心を打ち、人を動かすような表現もあります。文学作品には、こういう表現がたくさん使われています。それらを学んで身につけることが、本当に「使える」英語力の養成につながります（そこで、上記の2が重要です）。

さらに、この小説の場合は、1990年代から2000年代初頭のアメリカの文化や社会、政治についての言及が数多く含まれています。言うまでもなく、文学作品はそれが書かれた文化や社会の産物です。ある社会に書かれた作品は、その社会に存在しているほかのさまざまなテキスト（文学作品だけでなく、映画、音楽、漫画などを含む）と相互に影響しあって、その社会の「文化」を形成します。作品をそれが書かれた時代の文脈に置いて読むと、その文化や社会についての理解が深められるので、文学作品はその地域の文化を研究することとも密接に関わります。これが、3が重要な理由です。

そして最後に、文学作品を読むことは、自分の意見を形成する訓練をするうえでも大きな力を発揮します。みなさんは、ほかの科目でも、「大学では感想ではなく意見を書きなさい」などと言われることがあるでしょう。小説に関して意見を述べるというのは、「直前に『〇〇』という表現があるから、この台詞にはこういう真意がある」とか、「ここで言及されている政治家はこういう人だから、それを支持する人には××な政治的傾向がある」など、文中の特定の部分、あるいは作品の背景となっている歴史的な事実にしっかりと根拠を見つけ、それに基づいて自分の考えを人にわかるように示すことです。そして、そういう意見は、人と議論することを通じて、お互いに確かめ合うことができます。「学問的な議論」とはそうして深めていくものです。そのために文学作品は格好の材料を提供してくれます（これが、4が重要である理由です）。

■ここからスタートです

以上、この本のご紹介、勉強のしかた、そして、身につけることができるはずの力についてお話しました。あとは「実行あるのみ」です。この教科書は、みなさんが興味をもって英語の学習に取り組めるように考えて作りました。楽しみながら英語力の向上を図っていただければ、編者一同、望外の喜びです。

編者代表／佐藤和哉（日本女子大学）

編集／日本英文学会関東支部

奥聡一郎（関東学院大学）

久世恭子（東洋大学）

笹川 渉（青山学院大学）

佐藤和哉（日本女子大学）

古屋耕平（青山学院大学）

ワンランク上の小説の読みかた

「はしがき」で、この小説を使った「英語の勉強のしかた」について触れましたので、ここでは、どういう視点から小説に取り組めばよいか、いくつかヒントを示してみます。

小学校から高校までの国語の授業で小説を読むときには、登場人物の心情を考えたり、その小説を通じて作者の言いたいことを探ったりする作業を行うことが多かったでしょう。その結果、こういう読みかたが多くの人に馴染みが深いものとなっているかもしれませんが、それだけが小説の読みかたではありません。

たとえば、「表現に着目する」といった読みかたがあります。Chapter 1の冒頭部分に、“a clump of dark gray clouds hung in the air like an enormous cartoon thought bubble, like they were all sharing one stormy idea.” (p. 6)という表現があります。これは、天気が崩れかかって雲が出てきているのを、考えている中身を表すマンガの吹き出しみたいだ、と喩えています。この比喩を読んでどういう光景が頭に浮かびますか？ このように、この小説には、巧みな比喩がたくさん使われています。そこに着目して、それらの比喩が読者にどのような印象を与えるか、を考えてみるのは、文学作品への有効なアプローチの一つです。

そのほかには、「語り手に着目する」という着眼点も有効です。この連作の小説は、いずれも「ぼく」という語り手の一人称で語られていますが、10歳の「ぼく」と中学生の「ぼく」、20歳を過ぎた「ぼく」は、当然、それぞれ、周囲の人びと——たとえば兄——に対する理解力も、自分自身についての考えかたも異なります。その違いを丁寧に読み取ってみると、面白い発見があるかもしれません。

小説などの文学作品を読んで、感想文を書いたり感想を話し合ったりするのは、とくに英語でそれを行う場合には一定の効果があります。しかし、ワンランク上のアウトプットを目指すならば、上で述べたような読みかたをしたあと、それにもとづいて、作品の「良いところ」を人に伝える文章を書いてみることをお勧めします。「私」を主語にして、その物語のどこが好きなのかを述べるだけでなく、「この物語」を主語にして、その物語のどういう点が効果的だったり印象的だったりするのかを客観的に書くことに挑戦してみてください。「書く」ことで、「読む」活動が完結します。ここまでできれば、立派に「ワンランク上の小説の読みかた」だと言えるでしょう。

(佐藤 和哉)

Contents •

Chapter

1

Let Us Go Out Into the Field

... 003

Unit: 1

Let Us Go Out Into the Field « 1 »

Unit: 2

Let Us Go Out Into the Field « 2 »

Unit: 3

Let Us Go Out Into the Field « 3 »

Unit: 4

Let Us Go Out Into the Field « 4 »

Chapter

2

One Flew East, One Flew West

... 053

Unit: 5

One Flew East, One Flew West « 1 »

Unit: 6

One Flew East, One Flew West « 2 »

Unit: 7

One Flew East, One Flew West « 3 »

Unit: 8

One Flew East, One Flew West « 4 »

Unit: 9

One Flew East, One Flew West « 5 »

Chapter

3

Reunion

... 117

Unit: 10

Reunion « 1 »

Unit: 11

Reunion « 2 »

Unit: 12

Reunion « 3 »

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 分詞構文の意味

005

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 過去完了

017

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — as if と省略

029

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 仮定法過去完了

041

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 関係副詞の非制限用法

055

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 関係詞節の挿入 (連鎖関係詞節)

067

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 使役動詞 have + 目的語 + 原形不定詞

079

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 副詞句の前置による強調と倒置

093

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 未来のことを考える would

105

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 名詞節を導く接続詞の if

119

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 直接法の if

131

Expression • Comprehension • Discussion • Writing

Grammar Guide — 接続詞 but

143

審査用見本

Michael Larson

NOTES ON BROTHERHOOD

English Literature in the Classroom Vol. 1

備查用見本

For my brothers, Rob and Chris and Danny

And, as always, for J

Chapter

1

Let Us Go Out Into the Field



This is a story of two brothers, which, as the title alludes to, is a story as old as time or at least as old as history. However, I hope the piece's specificity removes it from the realm of archetype and captures something of what it was like to grow up in the mid-1990s in America. Although the Cold War was over, for many people the military continued to play a significant role in everyday life, especially families with members serving in the armed forces and those near the sprawling bases, like Ft. Lewis in Washington State. In movies and TV shows, video games and popular songs, the military was woven into the culture.

In addition to the focus on the two brothers, this story is also about the stage in life when one begins to leave childhood behind and peer into the world of adults. For the protagonist, this takes the form of understanding what his older brother already knows about their family. In that way, it is a typical story of discovery.

これからみなさんが読むのは、聖書から借りたタイトルが暗示するとおり、ふたりの兄弟についての物語であり、昔からよくある、あるいは少なくとも人類の歴史が始まってから見られるお話です。ですが、これは人類の原型として描かれる兄弟の話ではなく、1990年代半ばのアメリカで育つことがどのようなものであったかを、本作中の具体的な描写によってとらえることができればと思います。東西冷戦は終わりましたが、多くの人々にとって、軍隊は日常生活の中で重要な役割を担い続けていました。軍隊に所属する家族がいる家庭、ワシントン州のフォート・ルイスのように広大な基地の近くで暮らしている家庭にとっては特にそうでした。映画やテレビ番組、テレビゲーム、ポピュラー音楽では、軍隊は文化の中に織り込まれていました。

Chapter 1 では、「ぼく(ダン)」とその兄ロブのふたりの兄弟に焦点を当てることに加え、子ども時代を離れて大人の世界をのぞき見始める人生の段階も描いています。主人公の「ぼく」にとっては、自分たちの家族について兄がすでに知っていることを理解するという形式をとっており、その意味で、典型的な発見の物語となっています。

審査用見本

Let Us Go Out Into the Field « 1 »

Unit : 1

第1部はリトルリーグの野球の試合の場面から始まります。主人公の日常の描写から、「ぼく(ダン)」と、兄のロブ、兄の友人レニー、父や母との関わりを読み取りましょう。



Pre-reading

1. ワシントン州とはどのような場所なのか、調べてみましょう。
2. 次に示す、野球に使われる英語やルールについて調べてみましょう。

[batter, pitcher, outfielders, inning, dugout, grounders, infielders, shortstop]



Vocabulary

次の語の定義を下記の a から j の中から選びなさい。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|---------------|-----------------|
| 1. lean | 2. chant | 3. squint | 4. knee | 5. glisten |
| 6. bruise | 7. ignore | 8. glow | 9. resentment | 10. concentrate |

- a. the joint that bends in the middle of your leg
- b. to behave as if you had not heard or seen someone or something
- c. to move or bend your body in a particular direction
- d. a steady radiance or light or a strong feeling of pleasure etc.
- e. to shine and look wet or oily
- f. to think very carefully about something that you are doing
- g. to repeat a word or phrase again and again
- h. a feeling of anger because something has happened that you think is unfair
- i. a purple or brown mark on your skin that you get because you have fallen, been hit etc.
- j. to look at something with your eyes partly closed in order to see better

③ I watched Rob standing with one foot in the batter's box and one foot out. The **head** of his bat rested on the dirt and the **handle** was balanced against his thigh, while he pulled the straps of his hitting gloves tight. Above the opposing team's outfielders, **a clump of** dark gray clouds hung in the air like an enormous **cartoon thought bubble**, like they were all sharing one stormy idea. 5

Two outs in **the bottom of the sixth**, the last inning according to the Little League rulebook. **Our team was down by one**, runners on first and second, the count was **three balls to one strike**. I leaned against the fence in front of the home dugout, **my fingers looped through the chain links**. My dad was coaching because our regular coach Mr. Miller had been called on to help **put out** a blaze in the woods behind the high school with his volunteer firefighting unit; Dad sometimes **helped out with** our team, **hitting grounders to the infielders during practice**, and he was the closest thing we had to an assistant coach. 15

④ The opposing pitcher had thrown the whole game and looked **dog tired**. This inning, **he'd struck out the eight and nine-hole hitters**, and then lost his feel for the strike zone and gave up two **walks**. Dad was going through the signs, and he put up four fingers which meant **take the next pitch**. 20

Rob **shook his head** ever so slightly before stepping back into the box and **coiling** into his batting stance. "Good eye, now, good eye," I chanted, but I just knew he was going to swing.

The outfielders squinted in toward home plate, and the runner on first took a step off **the bag**; Lenny, the runner on second, **measured out** his own lead, looking over one shoulder then the other, **like a thief** who knows he's being watched. The shortstop had taken a knee on the infield dirt **between pitches**, but now he got to his feet, **scuffed the ground with one of his cleats**, pounded a fist into his glove. 25

The pitcher's forearm glistened with sweat. His throwing hand was hidden inside his glove where it gripped the ball. He raised his leg, twisting through his **windup**, then strode forward, his arms flying apart. 30

- Title **Let Us Go Into the Field:** fieldは「(冒頭の場面で描かれる)野球場」、「(Unit 4の軍事演習がおこなわれる)野原」などUnit 1-4で描かれる物語の舞台を表している。タイトルは旧約聖書『創世記』に登場するカインが、弟のアベルを誘い出す時に述べる言葉である(4章8節)。その後、アベルはカインを殺すというエピソードが語られる。ここでは、「野球をしに行こう」という意味とともに、語り手の「ぼく(ダン)」と兄(ロブ)の不和が示唆される。
- 2 **head:** (バットのボールを打つ方の)先端部分。通例 **end** という。
handle: (バットの握る部分も含めた)柄の部分。
- 4-5 **a clump of:** 「ひとかたまりの」
- 5-6 **cartoon thought bubble:** マンガなどに使われる、登場人物が考えていることを書き込む雲形の枠。
- 7 **the bottom of the sixth:** 「6回裏」
- 8-9 **Our team was ... :** この1文は接続詞がなくコンマ(,)のみで節・句・節が並列されている。
- 8 **down by one:** 「1点差で負けている」
- 9 **three balls to one strike:** 一般にバットを振るには絶好のカウントとされる。
- 10-11 **my fingers (being) looped through the chain links:** 「指を金網にひっかけた」主節の主語Iと異なる独立分詞構文で、my fingersを主語にし、鎖状になっている金網をつかんでいる様子。
- 12 **put out:** 「消火する」
- 13-14 **help out with:** 「(困った時に)手助けする」
- 14 **hitting grounders to the infielders during practice:** 「練習のときに内野手にノックでゴロを打って」
- 16-17 **dog tired: = dog-tired** 「ひどく疲れ果てて」
- 17 **he'd struck out the eight and nine-hole hitters:** 「8番打者と9番打者を三振に仕留めて」
- 18 **walks:** 「フォアボール」
- 19-20 **take the next pitch:** 「次の球を見送れということ」
- 21 **shook his head:**
Q. 1 >> ロブはサインに対してどのように返答したでしょう。
 1. したがうと合図した。 2. 拒否した。
- 22 **coiling:** 「身体を丸めて」
- 25 **the bag:** 「ベース」
- 25-26 **measured out:** 「距離を測った」
- 26 **Q. 2** >> なぜ like a thief という比喩が使われているのでしょうか。
- 28 **between pitches:** 「投球の間に」
- 28-29 **scuffed the ground with one of his cleats:** 「片方のスパイクで地面を蹴った」
- 32 **windup:** ピッチャーが両手を頭上に上げて投球動作に入ること。

⑤ *Hit, hit, hit*, I hoped with one half of my mind. *Out, out, out*, I pleaded with the other.

A **hit because** Lenny would race home and **tie the game**—the rulebook said **no extra innings**, so a hit meant we couldn't lose and might even win **if we pushed across another run**. Dad wouldn't be happy to have his sign **brushed off**, but **he'd** get over it. A hit would mean **no sulking** on the drive home and might even mean **TacoTime** for dinner. A hit would mean **we'd be happy together again**.

An out would be game over, no need for pride or celebration. **No listening to Rob talk** for the next month about his game-tying hit with two out in the last inning. An out would show him, teach him **a lesson**. You need to listen sometimes, stop **testing the limits**.

If this sounds strange to you, if this contest between hope and dread **rings unfamiliar**, if in your mind the difference between love and hate is a clear bright line, **not a hair to one side or the other**, then maybe you never had a brother.

⑥ On the ride home, the van was quiet. Dad drove, I was in the passenger seat, and Rob was in the backseat next to Lenny, who in addition to being our team's **third baseman** and my brother's best friend, was Mr. Miller's son. His **mom** had dropped him off at our farm before the game and my dad said he could ride back with us, and she could pick him up whenever was good for her.

"**Man**, what a game," Lenny said, as we merged onto the **freeway**. "**So close**."

I liked Lenny for the most part, but sometimes he involved himself in my brother's stupid ideas, like when he and Rob said they'd teach me to snowboard and brought me up three chair lifts to the top of **White Pass Mountain**, then took off—Rob saying, "Bye, **loser**," over his shoulder as he **sped** away. By the time I reached the bottom of the second lift, **I'd fallen so many times I could feel bruises** forming on my arms and legs and **my ribs hurt so bad I was in tears**. I asked the

35 A hit because: = I hoped for a hit because

tie the game: 「試合を同点にする」 Cf. his game-tying hit (42行目)

36 no extra innings: 「延長戦はない」

37 if we pushed across another run: 「さらに1点をいれれば」

38 brushed off: 「無視される」

he'd: = he would

39 no sulking: 「父も口ブも不機嫌になることはない」

TacoTime: メキシコ料理を提供するファーストフードのチェーン店。

40 we'd be happy together again:

Q. 3 >> これはどのようなことを言っているのでしょうか。

41-42 No listening to Rob talk: = There is no need to listen to Rob talk

43 a lesson: 続く1文がその教訓の内容。

44 testing the limits: 「限界ぎりぎりのことを試すこと」

46 ring unfamiliar: 「聞いてもびんとこない」

47 not a hair to one side or the other: 「どちらの側にも髪の毛1本ずれる余地もないほどに」 Cf. a hair: 「ほんのわずかな量も」

56 Man: 「なんてこった」

freeway: 「高速道路」

57 So close: 「接戦だった」

61 White Pass Mountain: 物語の舞台であるワシントン州にある、スキー場で有名な山。1990年代半ば、スノーボードが流行した。

loser: 相手をけなして「意気地なし」

62 sped: speedの過去形。

63 I'd fallen so many times I could feel bruises:

Q. 4 >> = I () fallen so many times () I could feel bruises

64 my ribs hurt so bad I was in tears:

Q. 5 >> = my ribs hurt so bad () I was in tears.

attendant **if I could take a chair down**, and on my way to the bottom 65
I passed the two of them coming up on the same lift; my face was red
from crying, and I looked away as they **whooped** and clapped at me.
I went into the lodge and found my mom, who'd driven us up in her
truck, and told her what had happened. When Lenny and Rob came
in for lunch, she grabbed her keys from her purse and **drug** Rob out 70
to the icy parking lot; we drove home, skipping the afternoon, though
we'd bought full-day passes. They kept calling me a **tattletale**, but I
ignored them.

(7) This had been a few months ago, and since then Mr. Miller let
me join the baseball team despite my being younger than all the other 75
boys, who were in Rob's grade. The glow of my gratitude toward our
coach extended to Lenny and helped me forget the bit of resentment I
continued to hold against him. Still, as we drove home, **I couldn't help
but suspect he was getting my brother going on purpose.**

"One run. We needed one run." Rob slapped his glove against his 80
knee. "**God damn.**"

"No, no, no," Dad said, looking in the rearview mirror. "That's a
no on the language."

"**Sorry, we did.**"

He'd hit **a line drive, a screamer** curving toward left field, but at 85
the last second the shortstop had leaped up, **his legs bicycling in the
air**, and snagged the ball in the top of his glove. **A snow cone catch.**
Three outs, **ballgame.**

"You need to pay attention when I'm giving signs." It started to
drizzle, and Dad switched on the windshield wipers. "Didn't you see 90
me give **the take sign**?"

"I was concentrating on hitting." From the sound of his voice, I
could tell Rob was looking out the window at the green-grey farmland
and passing traffic.

"**You swung at ball four.**" 95

Had Dad not seen my brother **shake him off**? Or was he just

- 65 if I could take a chair down: 「(滑って降りるのではなく) リフトに座って降りられるかどうか」
- 67 whooped: 「叫んで囃し立てた」
- 70 drug: 「引っ張った」 一般的に drag の過去形は dragged だが、アメリカの口語表現では drug の形も用いられる。
- 72 tattletale: 「ちくり屋」
- 78-79 couldn't help but suspect: 「疑わざるを得なかった」
- 79 he was getting my brother going on purpose: 「レニーは兄をそそのかしていた」
- 81 God damn: 「ちくしょう」 不快感、失望、怒り、いらだち、あるいは驚きなどを強調する口語表現。直訳すると「神が呪いますように」。このように主に口語で用いられる冒瀆的な罵りの言葉を swear word という。
- 84 Sorry, we did:
Q. 6 > = We're sorry that we used the words "()()".
- 85-88 試合の回想。89行目から再び車内の場面が変わる。
- 85 a line drive, a screamer: 「ライナー」 ノーバウンドで鋭く飛んでいく打球。
- 86-87 his legs bicycling in the air: 「ショートの足が宙を漕いで」
- 87 A snow cone catch: 「かき氷式キャッチ」 ボールがかき氷のようにグローブの先端からはみ出ている捕球。
- 88 ballgame: = ball game 「試合終了」
- 90 drizzle: 「霧雨が降る」
- 91 the take sign: 「ボールを見送れのサイン」 19-20行目以下を参照。
- 95 You swung at ball four: ボール球だったので、バットを振らなければフォアボールを選ぶことができたことを言っている。
- 96 shake him off: 「父のサインを拒否する」

pretending not to have **noticed**? Things had been tense between him and Rob for weeks. **Maybe he was trying to let this one go.**

My brother said, “I wanted to **get it over with.**”

“Well, you did. Not the way you ought to have **though.** You need 100
to be patient. Use your head. **Take the pitch and we have a runner on
third.**”

I heard my brother whisper to Lenny, “Ask him.”

“Hey, Mr. Overton, **can Rob come over to my house?** My mom
can take both of us to school tomorrow morning.” 105

“**School night,**” I muttered.

“Shut up,” Rob hissed behind me.

He must’ve known what the answer was going to be, which was
why he’d gotten Lenny to ask. I didn’t understand the reason, but for
the last couple of weeks, my brother had put on an **attitude** when he 110
talked to our parents.

- ⁹⁷ noticed: = noticed that Rob ignored Dad's sign
- ⁹⁸ Maybe he was trying to let this one go: 「たぶん、父はこの一件をなかったことにしようとしていたのだろう」
- ⁹⁹ get it over with: 「いやなこと(ここでは試合)を終わらせる」
- ¹⁰⁰ though: 「けれども」 副詞として文末で用いる。
- ¹⁰¹⁻¹⁰² Take the pitch and we have a runner on third: 「ボールを見送れば3塁に走者を進められる」 3ボール1ストライクでピッチャーが投げたボールがおそらくボール球だったので、見送ればロブがフォアボールとなり、満塁にすることができたと言っている。
- ¹⁰⁴ can Rob come over to my house?: アメリカでは、小学生くらいになると親しい友達の家泊まりに行くこと(sleepover)がよくある。
- ¹⁰⁶ school night: 学校がある前日の夜。
- ¹¹⁰ attitude: 「生意気な態度、反抗的な態度」

壱査用見本



Expression

本文を参考に次の表現を英語になおす時に空所に入る語を書きなさい。

1. 私は彼女が丘の上に立っているのを見ていた。
I watched her () on the hill.
2. その少年は先生の前で行儀よくふるまった。
The boy behaved himself in () of his teacher.
3. 私は彼のことを笑わずにはいられなかった。
I couldn't help () laugh at her.
4. 君はもっと注意を払うべきだ。
You should () more attention.
5. 彼は積極的な姿勢をとるふりをしている。
He () on positive attitude.



Comprehension

次の問いに答えなさい。

1. その日になぜ語り手とロブの父親が野球のコーチをしていたのですか。

2. he'd get over it. (ℓ.38)とありますが、なぜですか。

3. A hit would mean we'd be happy together again. (ℓ.40) のwouldの意味はなんですか。

4. then maybe you never had a brother. (ℓℓ.47-48) から兄弟がいると何がわかるのですか。

5. On the ride home, the van was quiet. (ℓ.50) この状況から何がわかりますか。

6. but sometimes he involved himself in my brother's stupid ideas, (ℓℓ.58-59) の例を説明しなさい。

7. They kept calling me a tattletale, (ℓ.72) とありますが、なぜこのようなことを言ったのですか。

8. Rob slapped his glove against his knee. (ℓℓ.80-81) とありますが、この時のロブの気持ちを説明しなさい。

9. Things had been tense between him and Rob for weeks. (ℓℓ.97-98) の過去完了にはどのような意味があると思われますか。

10. He must've known what the answer was going to be, which was why he'd gotten Lenny to ask. (ℓℓ.108-109) ロブはどんな答えが返ってくると予想したのでしょうか。



Discussion

1. "like they were all sharing one stormy idea" (ℓ.6) の "one stormy idea" からどのような印象を受けますか、話し合ってみましょう。

2. "*Hit, hit, hit*, I hoped with one half of my mind. *Out, out, out*, I pleaded with the other." (ℓℓ.33-34) の箇所について、主人公はなぜこのように考えるのか、話し合ってみましょう。



Writing

Choose a member of your family. Describe him or her and write about the relationship between that person and you.

Grammar Guide — 分詞構文の意味

He raised his leg, twisting through his windup, then strode forward, his arms flying apart.(22.31-32)では分詞構文が効果的に用いられています。「彼は足を上げ、(と同時に) 投球前のワインドアップで体をひねらせ、それから足を前に出し、(その結果として) 彼の両腕が別々の方向に動いていくという」、ピッチャーの球を投げる様子がスローモーションのように展開されています。

分詞構文の動作主が主語と異なるときには分詞の前に意味上の主語を置きます。his arms は主語のHeと異なるために分詞 flyingの前に置かれている意味上の主語です。分詞構文の取る意味は上記の例での付帯状況や結果の他にも時や条件などがあります、このような分詞構文によって、読み手は前後の文脈から重層的な意味を推し量ります。